

かけはし



伊賀市立三訪小学校だより

2023年12月7日 No.19

発行責任者 高橋 昌史

部落問題を考える小学生の集い

～差別をなくしていくなかまとしてつながるために～

11月28日(火)、6年生の代表2人が、ハイトピア伊賀で行われた、部落問題を考える小学生の集いに参加しました。伊賀市内の全ての小学校の子どもたちが部落問題をはじめとするさまざまな人権問題について話し合う集いです。それぞれの学校で学習していることを交流したり、反差別の仲間として自分たちは何をしていくかについて話し合ったりしました。本校の代表の2人は、最初は緊張していましたが、ゲストティーチャーとの出会いから考えたことや学級のみみんなで話し合ってきたことを伝えることができました。2人は、差別をなくす主体者として、「集い」に参加して考えたことや感じたことを学級で発信しました。

また、2人が参加していた同じ時間に、6年教室では、「6年生の集い」を行いました。学級の課題を話し合ったり、今、自分たちができることを考えたりしました。6年生がさらに差別をなくしていくなかまとしてつながっていくことを期待しています。

3年生 寺田市民館 訪問学習

11月28日(火)、3年生は、人権学習と社会科の「住みよい町づくり」を関連させた学習として、寺田市民館を訪問しました。服部館長さんからは、「寺田市民館は、人と人をつなぐところ。いじめる人がいなくなればいじめはなくなる。いじめに気づけるように、子どもの頃から勉強をすることが大切です。」と教えてもらいました。

また、職員の松村さんからは、「お互いの違いを認め合うこと、友だちの思いを聞くことを大切にしてほしい。」と、居心地のよい学級づくりのためのヒントをもらいました。中森さんからは、広島から送られた、被爆からの復興の象徴である「アオギリ」に込められた思いなどを聞かせてもらいました。そのあとは、南さんに施設の見学をさせてもらって、放課後に差別をなくすための勉強をしている子どもたちがいることを教えてもらったりしました。

3年生は学級に帰ってから、自分や学級のことを振り返り、みんなが安心できる学級にしようと話し合いを始めています。

